

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教育課程論(Educational Program)	授業コード	K005951
担当教員名	首藤 真一		
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	教職必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	2008年度入学生より		
受講心得	学校教育活動を構築し、実践するという気概を持ち受講してください。□ 課題は毎週課し、演習等も多く取り入れましのでプレゼン能力は身に付けてください。		
教科書	『教育課程』 柴田義松 著(有斐閣コンパクト) □		
参考文献及び指定図書	『実践に活かす教育課程論・教育方法論』 山口 満 唐澤 勇 監修(学事出版)□		
関連科目	教職概論、教育原理Ⅰ・Ⅱ、教育方法論、教科教育法等教職関係科目		

授業の目的	教育課程の基本原則及び教育課程論(カリキュラム)の概念、歴史、現状、課題について基礎的事項の理解及び学習指導要領の歴史並びに構造を十分に理解するとともに、児童生徒の発達を踏まえた学校教育活動の実施計画(教育課程)を編成できる基礎的能力の養成を目的とする。 また、諸外国における教育課程改革の方向性を理解し今後の我が国における新しい学校教育課程の在り方を探求する。
授業の概要	21世紀の教師に求められる資質・能力の中で、学校教育活動実施計画(教育課程)に係る基本的な知識や事及び教育課程(カリキュラム)の概念、歴史、現状、編成原理、編成方法及び課題について概説する。また、今日の教育課題との関連を視野に入れながら我が国のあるべき教育像(学校像)についても探究する。授業ではDVDやパワーポイント教材も活用するとともに、学生の皆さんの活動場面を多く取り入れていきます。プレゼン能力を身に付けてください。 □

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：現在の教育課題と教育課程の基本問題 調査結果を下に、学校生活での児童生徒を取り巻く環境の変化と児童生徒の変容を探る。学校や児童生徒の実態に即した学校教育計画の在り方への方策を探究するとともに、教育課程論の概要について概説する。また、学校知の転換が求められてきた背景について省察するとともに、「私の目指す学校像」について論述する。	・基調の転換を図る教育改革構想・教育課程とは・教育課程の前提条件・学校はなぜ存在しなければならないのか
第2週：教育課程の基本原則 教育課程の概念や学校教育目標及び教育指針との係りの下、学校の実態に応じたCurriculumの類型並びに教育課程との関連等において「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」から今後の教育課程を探究する。	・USA危機に立つ国家・各学校種の教育の目的・教育課程を規定する法規関係
第3週：学校知(教育の基調)の転換 従前の学校のSituationを省察する。21世紀の教育の在り方を展望する学校教育改革案、中央教育審議会の第一次答申に基づく「生きる力」を育成する教育へとその基調の転換がなされた要因と転換の必要性及び教育改革構想等について探究する。また、世界の教育課程改革の歴史を学習する。	・教育課程の類型・Hiddenなカリキュラム・脱学校論・書物学校と労作学校
第4週：教育の基調の転換における歴史的背景<1>我が国の教育改革小史 近代における変遷: 学制発布の明治初期の教育改革、教科課程及び戦前の教育課程と教育改革への試みについて学習する。戦後の教育課程: 「米国教育使節団報告書」の下進められた戦後の教育改革について学習するとともに、教科内容の現代化の変遷についても探究する。	・学制・復古的儒教主義の教育課程・国家主義的教育課程・教科書国定制度・米国教育使節団報告書
第5週：教育の基調の転換における歴史的背景<2>学習指導要領の変遷(1)	

<p>教育課程の編成における重要な基準である学習指導要領の歴史的変遷とその時代時代における役割と性格について探究する。</p>	<p>・学習指導要領の改訂(変遷)とその特徴および内容・教育課程との関わり</p>
<p>第6週：教育の基調の転換における歴史的背景<2>学習指導要領の変遷(2) 学習指導要領一般編(試案:1951年)から、富国強兵、教育内容の現代化の潮流や高度な科学技術の取得、中等教育の能力主義、人間性復活とゆとり教育、地域に根差す教育など、国の施策とともに変化してきたその性格を歴史的背景を踏まえ、探究する。</p>	<p>・学習指導要領の法的性格・学習指導要領の基本性格・ゆとり教育・道徳・総合的な学習の時間・特別活動</p>
<p>第7週：教育課程と学習内容の関係について 編成された教育課程が児童生徒の学習内容とどのような係りをもっているのか、教科書や補助教材の機能と役割、教材との関連性について学習する。また、教育課程の構造及び教科外の教育活動の役割について探究する。</p>	<p>・教科書とは・補助教材とは・教科外の活動のねらい・1970～80年代の学校教育崩壊事例の要因は何か・学校週5日制</p>
<p>第8週：児童生徒の心身および知的発達を踏まえた教育課程の開発 児童生徒の連続的発達観の下、発達段階に応じた教育課程及び特別支援を要する児童生徒に係る教育課程の在り方について学習するとともに、教育課程開発について探究する。併せて習熟度に応じた学習習熟度別学習集団の編成についても探究する。</p>	<p>・学習習熟度別編成・新しい学力観</p>
<p>第9週：新しい教育課程改革1ー現代的意義と課題 カリキュラム開発の概念と方向性及びカリキュラム経営面からの現代的意義、評価の在り方の観点から意義と課題について探究する。</p>	<p>・新しい学力観とは・生きる力とは・個に応じた指導方法とは</p>
<p>第10週：新しい教育課程改革2ー「ゆとり」「個性」「生きる力」 「ゆとり」「個性」側面からみた課題及び「生きる力」とその背景について学習します。その際、学び方の新しい転換についても概説する。また、開かれた学校、教育活動への説明責任として、特色ある教育、特色ある学校づくりについて探究する。</p>	<p>・中央教育審議会答申・学習指導要領の内容の基準性</p>
<p>第11週：教育課程開発と教材論および教師の在り方 21世紀の改革の一つは、「学び方を学ぶ教育課程の編成と実践」である。教科書や補助教材の意義、教科書教材のもつ役割および教師の信念ある教授計画とLesson Studyの重要性について深化する。また意義ある教育課程とするために、教材論や価値ある教材とは、教材研究の視点と方法、教材構想の3要素等について探究する。</p>	<p>・教師、教材、子どもたちとの関係・教材研究・教材構想・演繹的方法と帰納的方法</p>
<p>第12週：教育課程の構造ー教育課程の開発に関して 組織的な教育機関としての学校が教育活動の目的や目標を達成するには、教育課程の分類や教育課程における陶冶と訓育の機能と構造を熟知しておかねばならない。教科指導と教科外の指導両面から子どもたちの人格形成を目指す過程について探究する。</p>	<p>・訓育的教授理論・陶冶的教授理論・地の発達と教育の構造</p>
<p>第13週：21世紀の学校と教育改革ー教育課程論の最重要課題 かつての課題は「学校教育を満たすべき最も本質的な教材は何か、そしてそれを如何に組織されるべきか」を決定することであった。ところがこの課題解決のためには、その前提としての一層根本的な課題「教育課程の本質的な性格は如何なるべきものか」の課題解決が必須要件となった。かくして、教育課程の本性への問いを徹底しつつ、選択・構成の原理と方法を発展する努力が現在の教育課程改革運動の歴史であることを探究する。</p>	<p>・本当に教育の過程を科学的な原理や技術で説明し、統制できるか・ブルーナ：教育の過程における構造理論</p>
<p>第14週：現行：高等学校学習指導要領総則編 平成21年3月9日改訂高等学校学習指導要領を研究することにより、基準や編成手順、教育課程の評価および実施方法、授業時間数、単位数など教員としての基礎基本を身に付け、学校での教育活動が円滑に実施できるよう研究する。</p>	<p>・改訂の経緯・編成実施上の配慮事項・教育課程編成手順と評価・中等教育学校における教育課程の基準</p>
<p>第15週：諸外国における教育課程改革の動向と教育課程開発の現代的意義と課題 国際化の一層の進展に対処するため諸外国における学制や教育課程改革への新しい動向について資料から概説する。また科学の発展や新しいものの考え方や人生設計の下、新しい教科構成や教育課程の系統性及びその在り方等について探究する。</p>	<p>・諸外国の教育状況とその背景・隠れたカリキュラム開発・UNESCO「21世紀の生涯学習社会に関する考え方」</p>
<p>第16週：期末試験</p>	

講義内容のすべてを試験範囲とする。試験時間は80分。

試験問題

授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	①今後の教育課程に係る新しい風に常に敏感である気概が持てる。
【知識・理解】	②教育課程変遷の趣旨とその時代背景を理解できる。③学校教育活動の仕組みと内容を理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	④学習指導要領の趣旨を理解し、教育課程の編成ができる。
【思考・判断・創造】	⑤人間関係能力を身に付けるとともに、特色ある学校づくりが描ける。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	20点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	課題は毎週課しますが、提出課題についてはその都度指示します。達成水準の目安は以下のとおりです。[Sレベル] 達成すべき到達目標を満たす。[Aレベル]達成すべき到達目標を概ね満たす。
発表・その他 (無形成果)	提出課題以外の課題やその他の事項について質問の回答や発表等は記録しておき、評価の際の参考資料とします。